Light Samplerの比較

elk

はじめに

- PBRT Fourth Editionの<u>Light Sampling</u>を読んで、以下の Samplerの実装と比較をしてみた
 - Uniform Light Sampler
 - Power Light Sampler
 - BVH Light Sampler
- 今回の検証で使ったライトはポイントライトのみ
 - 指向性のBoundはしていない

Stochastic Light Sampling

- 確率的に1つまたは小数のライトをサンプルする
 - ライトの数が多いと、すべてのライトをサンプルするのはコストが 高いため

$$\sum_{i}^{n} f_{i} \approx \frac{f_{j}}{p(j)}$$

 f_i : ライトjの寄与,p(j): ライトjが選択されるpdf

- 寄与が大きいライトを高確率でサンプルすることが重要
 - Samplerによってライトが選択されるpdfが変わる

Uniform Light Sampler

すべてのライトを同じ確率でサンプルする

Power Light Sampler

ライトのPowerでウェイトした確率でサンプルする

- Alias Tableを使うことで O(1)でサンプルできる
 - CDFを使って二分探索する場合は *O*(log *n*) かかる
 - レンダリング時間はUniform Light Samplerとほとんど変わらない(後述)

BVH Light Sampler

シェーディングポイントの位置を考慮した確率でサンプリング する

各シェーディングポイントに対して重要なライトを効率的に見つけるため、ライトのBVHを構築する

• BVHをトラバースしてライトをサンプルするので、サンプリングのコストは $O(\log n)$

BVH構築

• ライトのグループを再帰的に分割してBVHを構築する

• 以下のコストが最小になる分割位置を選択

 $Power * Surface Area * K_r$

- *Power*:分割後のライトのPower
- Surface Area: 分割後のバウンディングボックスの表面積
- K_r : 一番長い辺の軸が選ばれやすくなるファクタ
 - 一番長い辺 / 各軸の辺
- ※ポイントライトのみなので、指向性の要素は含まない

BVHトラバース

- トラバースする子ノードの選択
 - 子ノードのImportanceで計算した確率を使う
 - 各ライトが選ばれる確率は、トラバースしたノードの確率の掛け算
- 子ノードのImportance:

Power
$$*\cos\theta/d^2$$

- *Power*: ライトのPower
- *θ*: 法線とバウンディングボックス方向のなす角度の最小値
- d: バウンディングボックスの中心までの距離
 - 距離はバウンディングボックスの半径でクランプ
- ※ポイントライトのみなので、指向性の要素は含まない

比較

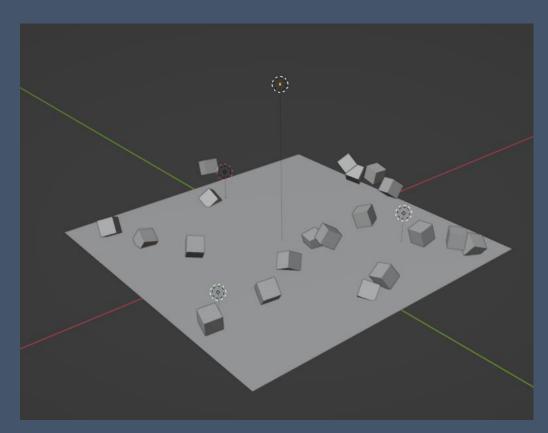
• 解像度: 512 x 512

• サンプル数: 128

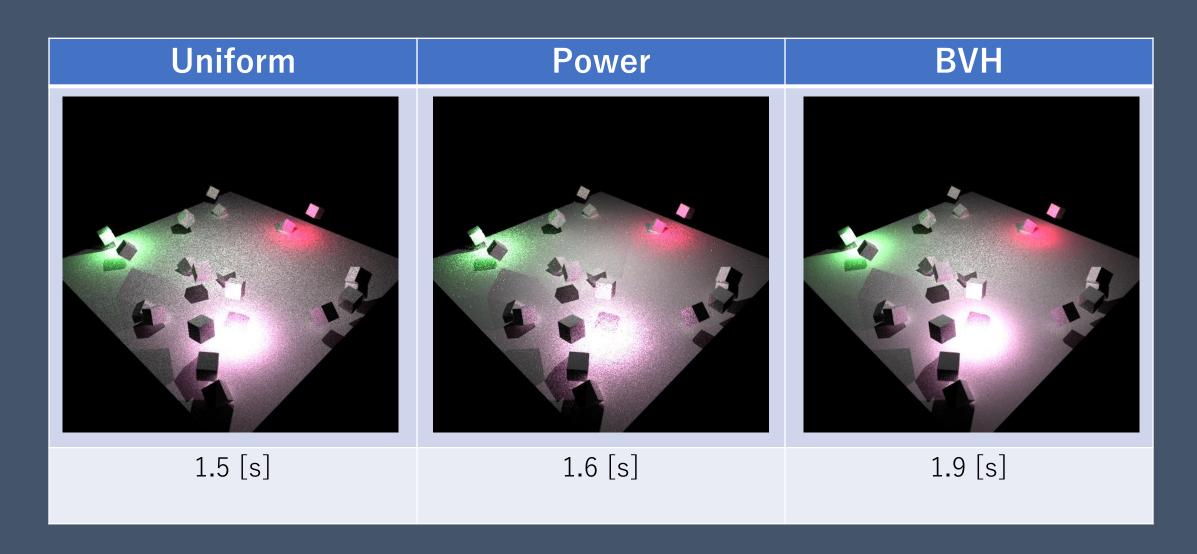
• CPU: Intel(R) Core(TM) i7-1065G7 CPU @ 1.30GHz 1.50 GHz

シンプルなシーンで比較

- Powerが強いライトを離れたところに配置
- Powerが弱いライトを3つオブジェクトの近くに配置



シンプルなシーンで比較



考察

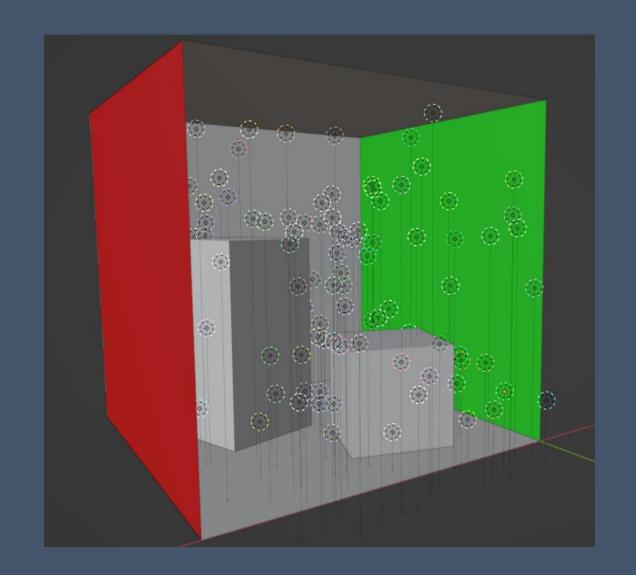
- Uniform Light Sampler
 - 一律でノイズが多い
- Power Light Sampler
 - Powerが強いライトの影響を受ける所はほぼノイズが無い
 - Powerが弱い3つのライトはUniform Light Samperよりノイズが多い
- BVH Light Sampler
 - Powerが弱い3つのライトのノイズは一番少ない
 - Powerが強いライトのノイズはPower Light Samplerより多いが Uniform Light Samplerより少ない

シンプルなシーンで比較

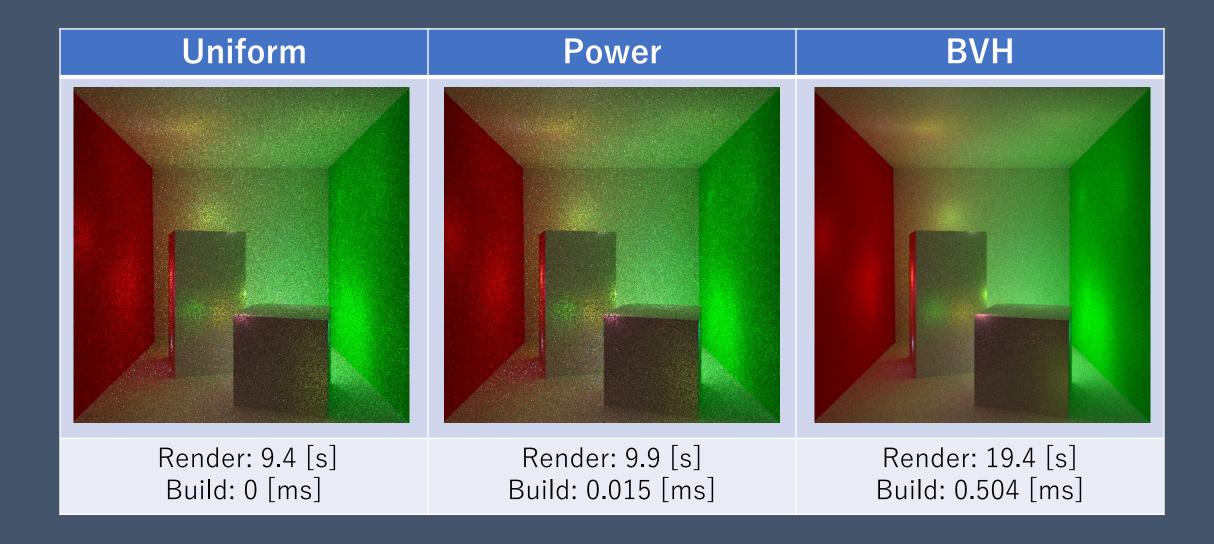


Cornell Boxで比較

- ・光源をBox内に100個配置
- 位置とPowerはランダム



Cornell Boxで比較



Cornell Boxで比較 (Render Timeをそろえる)

